

駅前のにぎわい作り・活性化のための視察 報告書

- 開催日 平成 28 年 8 月 21 日（日）
- 視察先 高梁川流域「倉敷三斎市」、林源十郎商店、三宅商店、水辺のカフェ酒津
- 目的 駅前の賑わいづくり、活性化につながるような事業の実施
- 参加者 7 名（委員 5 名、専務理事、事務局）
- 主催 三原商工会議所 地域活性化委員会

本所地域活性化委員会（勝村憲明委員長）では、8 月 21 日（日）、駅前の賑わいづくり、活性化につながる事業を実施している倉敷市へ視察を実施しました。

①朝市「三斎市」

三斎市は、平成 16 年にスタートし今年で 12 年目。毎月第 3 日曜日に開催している。出店料金は、1 区画 3,500 円。出店者数は、約 80～100 店舗。

地産地消が目的のひとつなので、地元産品を 50%は販売すること、また、半年間は継続して出店することを条件としている。

今年 4 月には、高梁川流域の 7 市 3 町で、高梁川流域「倉敷三斎市」にリニューアルされた。

毎月、月替わりで流域のまちが主役の「地域デー」を設けており、商店街の中央にある駐車場を貸切、イベントを開催している。

地域を越えて、商工会議所、商工会が連携し実施していることで、倉敷市にいながら地元の食材を利用した商品や観光 PR もできることは、魅力のひとつである。

最近は、商店街の店が自社の商品を店の前で、販売するようになってきており、賑わいが増してきている。



②倉敷市中心市街地活性化協議会、倉敷まちづくり株式会社

平成10年6月に、中心市街地活性化法が施行後、翌年に「倉敷街づくり協議会」を設置。

平成13年11月に、倉敷市中心市街地活性化基本計画が策定され（平成22年に認定を受ける）、平成15年に「くらしきTMO」が発足。平成20年9月に、倉敷まちづくり株式会社が設立。同月に、「倉敷中心市街地活性化協議会」が設立されました。



平成22年～27年には、官民72事業を実施。町家・古民家再生による新たな魅力で集客拠点の整備し、美観地区のみではなく本町通り（美観地区より北側の商店街）へ観光客を呼び込むための事業が行われました。

平成27年3月には、倉敷市中心市街地活性化基本計画第2期計画が認定され、官民63事業を計画されています。



倉敷まちづくり株式会社は、倉敷市、倉敷商工会議所、地元企業等が出資して設立。

事業内容は、倉敷市倉敷物語館指定管理、倉敷市市営駐車場指定管理、林源十郎商店事業（倉敷まちづくり（株）が建設し、（株）暮らしき編集部に運營業務を委託している）、奈良萬の小路事業の支援です。

指定管理事業の利益の中から倉敷市に寄付金を贈り、倉敷市は「まちづくり基金」を設置し、民間のまちづくり活動を支援しています。年に2回は、倉敷市と検討会議を実施しており、倉敷市中心市街地活性化協議会では、毎月1回、タウンマネージャー会議も開催しています。

③林源十郎商店、三宅商店、水辺のカフェ酒津 視察

倉敷市の観光地は、美観地区が有名ですが、路地を入ったところに昔ながら白壁の街並みが現在も残っています。空き家が増えるなかで、古民家を利用した事業を行っている「有限会社くま」代表の辻信行氏にお話を伺い、店舗並びに通りの説明を受けました。



林源十郎商店は、木造3階建て、母屋、離れ、蔵の4つの造りになっています。2階では、家具（主に椅子）の製作・販売をしており、オリジナル椅子を手に入れることができます。

元々「林源十郎商店」は、1657年からこの地で薬種業として営業していました。今も建物に当時使用されていた薬を入れる引き出しが残っています。

本館2階には「林源十郎商店記念室」があり、倉敷村の健康・福祉に尽力してきた林家・林源十郎商店の思いに触れることができます。

この林の精神を学び生かすためにも再生後の店名は、当時のまま「林源十郎商店」を使用しています。



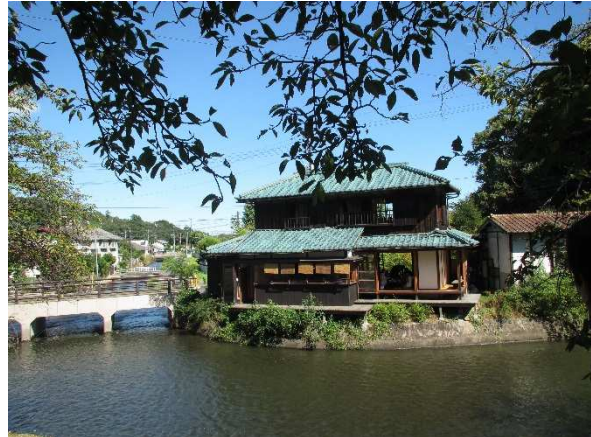
「三宅商店」は、江戸時代後期（百数十年前）に建てられた町家で、奥に長く土間が続き蔵があります。戦前より日用雑貨・荒物屋を営んでいました。こちらの店舗も歴史ある屋号をそのまま使用しています。

3階建てで、1と2階はカフェと雑貨販売、3階はカフェで、こちらの灯りは、やかん、かご、バケツなどすべて違う種類の物に電球が付けられていました。また、オープンテラスがあり、女子会や仲間との食事会が楽しめるそうです。

どちらの店舗も、きれいにし過ぎず、土壁や古材など積極的に活用し修繕されていました。

「水辺のカフェ酒津」は、倉敷美観地区・本町通りの町家喫茶「三宅商店」の二号店になります。酒津公園の葉桜の並木道を抜けたところに、カフェがあります。

散歩される方と自転車の方の「ご近所カフェ」としてスタートしましたが、遠方からの方のために駐車場を設けたそうです。こちらの店舗には、クーラーがありません。自然の風と川辺の雰
囲気を感じてもらいたいそうです。



水辺のカフェ近くに、新たな古民家の再生に取り組まれていました。

オープンキッチンにすることで、外も中も一体となって広く使用できるように改装されています。こちらでは、ジャム作りの工房があり、インターネットでの販売をされています。また、大手の百貨店からの問い合わせもあるそうです。

まだ、改装途中でしたので、オープンされたら、改めて伺ってみたいと委員からの意見がありました。



林源十郎商店、三宅商店など、視察させて頂いたカフェや店舗は、すべて古民家を再生されたものです。古いものを利用することが返って、新しいと感じさせているのではと思いました。

また、資金については、1/2 は補助金を利用されていますが、残りは出店しているお店に家賃を前払いしてもらった形で調達をされたそうです。何をキーワードにして、どこにターゲットを絞るのか？を考えることは、事業をするうえで基本なのだと改めて感じました。

とても暑い一日でしたが、視察内容はとても充実していました。